

(基盤科目)

科目名	研究方法特別演習V 英語名：Special Seminar on Study Method V	必修/選択	選択必修	
		単位数	2 単位	
		担当教員	土岐 玲奈	
【授業概要】 博士（教育）の学位を持つことになる教育研究者・実践者として、教育実践上の課題を取り上げ、学位論文をまとめていくことを目標に、研究の理論と方法を学ぶ。本科目では主に、質的な研究を扱い、特に、臨床的研究やエスノグラフィックな調査法を取り上げる。具体的な方法論とともに、質的研究における妥当性、研究倫理の考え方等も含め、調査研究の方法論について体系的に学修する。 また、以上の学修を踏まえ、自らの研究する対象に適した方法論（データの収集・分析方法）を選び出し、研究を進める。				
【キーワード】 臨床的研究、質的研究、フィールドワーク、面接調査、折衷主義、実用主義				
【授業の到達目標】 複数の研究法の基礎とその背景にある理論を理解するとともに、自身の問題意識を明確化し、研究上の問題設定と適合的な研究法を自ら選択できるようになる。				
【スクーリング実施の有無】 スクーリングの実施【あり】 スクーリングのメディア受講【可】				
【授業計画】				
回	内 容			
1	オリエンテーション 本演習のねらい・進め方			
2	受講生の研究テーマの確認			
3	受講生の研究実施上の課題の共有と検討			
4	臨床的研究の理論①臨床研究に関わる理論の概要			
5	臨床的研究の理論②実用主義・折衷主義			
8	臨床的研究の方法①参与観察とアクションリサーチ			
9	臨床的研究の方法②面接調査			
8	臨床的研究の方法③事例研究			
9	臨床的研究における文献研究の重要性			
10	臨床的研究におけるデータの扱い方			
11	結果と考察のまとめ方			
12	研究法の選択			
13	選択した研究法に基づく研究計画の作成			
14	研究方法から見た研究計画の報告と検討			
15	まとめと課題			
試験				
【履修にあたっての準備・履修上の注意点】 自身の問題関心と、実施したい研究の内容(可能であれば方法も)について、説明できるようにしておく。				
【スクーリングでの学修内容】 スクーリングは、学修の初期に、授業の目的や学修の概要を知り、この科目を通じて何をを目指すかを学生と教員が相互に確認するために行う。さらに、学修の終期に、学修のまとめとしてもスクーリングを行う。 学修の初期のスクーリングに関しては、スクーリングでは、その時点で考えている研究テーマについてまとめ、研究テーマに沿って必要とされるデータの内容や収集の方法を検討する。そのため、事前				

に、研究テーマをまとめ、報告できるよう準備することが望まれる。事後には、目的に適合的であると考えられる方法論について、さらなる学修を進めていく。

学修の終期のスクーリングでは、これまでに取り上げてきた研究方法と、各自の研究テーマの適合性を再度検討し、絞り込んだ上で、これをもとに学位論文の研究計画を立てて報告する。そのため、事前に、具体的な研究計画をまとめておくことが望まれる。事後には、スクーリングでの検討を踏まえ、計画書に基づいた研究を実施する。

スクーリングはこの2つの時期を含み、合計4コマ6時間以上をめぐり行う。

【評価方法】

合否については、研究計画・方法に関するプレゼンテーション・レポート（50%）、科目修得試験（50%）で評価する。

【テキスト】

藤田結子・北村文『現代エスノグラフィー』新曜社、2013年

マイケル・アングロシーノ(柴山真琴訳)『質的研究のためのエスノグラフィーと観察』新曜社、2016年

【参考図書】

秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤学『教育研究のメソドロジー』東京大学出版会、2005年

今津孝次郎『学校臨床社会学』新曜社、2012年

ウヴェ・フリック(小田博志・山本則子・春日常・宮地尚子訳)『質的研究入門』春秋社、2011年

鯨岡峻『エピソード記述入門』東京大学出版会、2005年

酒井朗『教育臨床社会学の可能性』勁草書房、2014年

佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版』新曜社、2006年

無藤隆・南博文・麻生武・やまだようこ・サトウ タツヤ編『質的心理学』新曜社、2004年

やまだようこ編『現場心理学の発想』新曜社、1994年

【教員メッセージ】

- ・受講者の問題関心をベースに、実践者であり研究者である、という立場で行う研究の特長を生かす研究法とその内容について検討します。
- ・スクーリングでは、受講者の皆さんが自身の考えや経験、研究上の悩み等を言語化し、共有することを重視します。

【備考】

特記事項なし